

平成 27 年度 北九州市まち・ひと・しごと創生総合戦略 基本目標の進捗状況と今後の取組

1 総合戦略の推進に向けた基本的な考え方

本市は、女性と若者の定着などにより社会動態をプラスにしていき、地方創生の「成功モデル都市」を目指すため、昨年 10 月、北九州市まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定した。

市では、総合戦略に掲げた 180 の事業について速やかに着手し、基本目標の実現に向けて精力的に取り組んでいるところである。ただし、策定後半年余りの現時点においては、事業の効果が既に現れているものや、現在は効果が現れていないが今後効果の出現が見込まれるものなど、事業の進捗に差がある。

したがって、まずは、それぞれの事業を推進協議会と連携して着実に推進し、成果を上げることに注力していくものであるが、併せて、全事業の成果（KPI）を評価・検証し、結果に応じて総合戦略の見直しを行うことにより、総合戦略の基本目標達成に向けた継続的な改善を行っていく。

2 総合戦略における基本目標の進捗状況と今後の取組

(1) しごとの創出

ア 進捗状況

項目	H31 年度(目標)	H26 年度	H27 年度
市内大学生地元就職者数	約 1,200 人	814 人	813 人
市内新規雇用者数	2 万人	—	3,378 人
空港利用者数	200 万人 ※H32 (目標)	126 万人	132 万人
航空貨物取扱量	30 千トン ※H32 (目標)	15 千トン	7 千トン
ものづくりと環境エネルギーに関する経済波及効果	約 9,500 億円	—	891 億円

イ これまでの主な取組

- キャリア教育イベント「北九州ゆめみらいワーク」の開催
- 北九州空港国内線定期便、チャーター便・臨時便は過去最高を達成
- 地域エネルギー会社や環境エレクトロニクス研究所の設立
- バイオマス混焼発電所の建設開始

ウ 今後の取組

新成長戦略に基づいた更なる新規雇用創出や、大学、行政、経済団体との緊密な連携のもとに、市内企業の協力を得ながら、COCプラス事業と一体となったインターンシップや、U・Iターン事業の充実等により地元就職の促進を図る。

また、福岡県との緊密な連携による新規航空路線の誘致や東九州自動車道の全線開通に伴う、より広範囲からの集貨に取り組み、空港利用者数及び航空貨物取扱量の増加を図る。

(2) 新しいひとの流れをつくる

ア 進捗状況

項目	H31 年度(目標)	H26 年度	H27 年度
首都圏からの本社機能移転等	30 社	—	2 社
小倉駅新幹線口年間集客数	300 万人以上	297 万人	—
外国人観光客数	26 万人	16.7 万人	—

※小倉駅新幹線口年間集客数は、現在集計中。8月を目途に公表予定。

※外国人観光客数は、現在集計中。8月を目途に公表予定。

イ これまでの主な取組

- 本社機能の移転・拡充促進インセンティブ（補助金・税控除）の創設
- 東京ガールズコレクション北九州、北九州ポップカルチャーフェスティバルの開催
- 明治日本の産業革命遺産の世界文化遺産登録決定
- OG7北九州エネルギー大臣会合の開催

ウ 今後の取組

首都圏からの本社機能等の移転については、新規インセンティブ（補助金・税控除）を活用し、積極的な企業誘致を図る。

また、スタジアムの活用等による新幹線口エリアにおける大規模イベントの誘致を行うとともに、小倉城周辺の魅力向上やクルーズ客船の誘致を図り、観光客誘致を強化していく。

(3) 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

ア 進捗状況

項目	H31 年度（目標）	H26 年度	H27 年度
女性の就業率	70%	66%	—
ダイバーシティ行動宣言等登録・届出企業	累計 800 社	597 社	697 社
合計特殊出生率	政令市トップクラスを維持	1.56	—

※女性就業率は、昨年実施の国勢調査より算定。（29 年 4 月予定）

※合計特殊出生率は、昨年実施の国勢調査より国が算定（9 月、10 月予定）

イ これまでの主な取組

- ウーマンワークカフェ北九州の開設（全国初）
- 北九州市女性創業支援のあり方検討会による市長報告
- 市の全管理職（615 名）がイクボス宣言（自治体初）
- 子育て環境に関し、NPO 法人の調査で 5 年連続政令市第 1 位の評価を獲得

ウ 今後の取組

国、県と連携を図りながら、「ウーマンワークカフェ北九州」において女性の就業を効果的に支援するとともに、企業の取組を支援する。

様々な機会ダイバーシティ行動宣言等登録・届出企業への呼びかけを行うとともに、登録等による企業メリットの充実を検討する。

「産前・産後ケアサポート」や「ペリネイタルビジット利用促進事業」の新規事業の実施など子育て環境の充実を図り、合計特殊出生率の政令市トップクラスを維持していく。

(4) 時代に合った魅力的な都市をつくる

ア 進捗状況

項目	H31 年度（目標）	H26 年度	H27 年度
「本市への誇りや自信がある」と答えた市民の割合	80%以上	57%	54%
「安全だ（治安がよい）」と 思っている市民の割合	90%以上	76%	73%
刑法犯認知件数 （人口千人あたり）	政令市で ベスト3	12位	政令市 13位
公共施設マネジメント	今後40年間で 20%削減※	—	実行計画 策定

※ 平成28～67年度までの目標値

イ これまでの主な取組

- ユースエネルギーサミット（YES）北九州の開催
- 1万人の防犯パトロール大作戦の開催
- 全国学生ボランティアサミットの開催
- 公共施設マネジメント実行計画の策定

ウ 今後の取組

シビックプライドの醸成や地域情報の効果的な浸透を図るとともに、北九州市の良いところや自慢できることについて語る市民参加型の「語り合いを重視したワークショップ」などを開催する。

安全・安心に関する市民意識の高揚や環境整備、発生件数の多い罪種に焦点を当てた啓発活動等に取り組んでいく。

「北九州市公共施設マネジメント実行計画」を着実に推進するため、進捗状況の的確な把握及び評価を行う「5ヶ年行動計画」を策定するなど、PDCAサイクルにより実効性を確保する取組を進める。

3 その他の取組

(1) 国家戦略特区の指定について

平成28年1月29日付で、「国家戦略特区」に指定された。今回の指定により、本市が提案した「介護ロボットの実証実装」や「シニア・ハローワークの設置」に関する規制改革項目に加え、国家戦略特区で認められている全ての規制改革項目について、活用することが可能となった。

国家戦略特区の第1弾事業では、「公道を活用したにぎわいの創出」として市内5箇所で地域団体が道路を活用したオープンカフェなどを実施し、多くの人出で賑わった。また、「介護ロボット等を活用した『先進的介護』の実証実装」については、対象の介護施設が決定し、今後、作業分析などの取組が実施される。

今後は、「公道を活用したにぎわいの創出」や「介護ロボット等を活用した『先進的介護』の実証実装」を継続的に実施するとともに、創業支援関係の特例を活用した取組や本市のインバウンド増加に寄与する民泊などの取組を進める。

(2) 地域住民生活等緊急支援のための交付金（地方創生先行型）事業について

女性・若者の本市への定着等を目的とした地方創生の推進を積極的に図るため、地方創生に資する事業を先行して20事業実施した。

本交付金を活用して、北九州ゆめみらいワークの開催、文系学生向けの地元企業でのインターンシップの実施、北九州市U・Iターン応援首都圏オフィスの設置、アジアNo.1フィルム・コミッションを目指した海外作品誘致支援、世界遺産登録を契機とした取組、女性活躍推進、安全・安心、北九州市版CCR C（現：生涯活躍のまち）実現に向けた取組等を実施した。

これらの事業は概ね順調に実施できたことから、その実績等を踏まえ、今年度も地方創生事業として効果的を実施することとしている。

(3) 地方創生推進交付金を活用した連携事業の推進について

本市では、「関門連携」と「北九州都市圏域の連携」をテーマに、地域再生計画・地方創生推進交付金実施計画を国に提出するとともに、平成28年6月の定例市議会に関連予算を提出・承認を得たところである。当該計画が認定され、地方創生推進交付金の交付が決定した際には、全庁的な取組として積極的に推進していくものである。

18市町の連携による地方創生の推進

～「関門連携」と「北九州都市圏域連携」の
相互連携によるシナジー効果の創出～

【関門連携】

夜間景観等の充実による、「通過型」から 「滞在・宿泊型」の目的地への転換

関門海峡を挟んだ両市の地理的近接性や夜間景観の活用などにより、通過型観光から宿泊型観光へ転換し、域内での消費額の増加を図る。

民間は、宿泊の誘客促進や回遊性の向上を進め、行政は、夜間景観の一体的整備や民間事業展開の支援等を行う。

総事業費：1,247百万円（H28年度：210百万円）

【観光客増による
消費増加額】

8.794百万円増
(H32年度末)

【北九州都市圏域の
オプション観光地化】
「関門」から
「北九州都市圏域」へ
人の流れをつくる

【特産品による
観光客満足度向上】
「北九州都市圏域」の
ブランド特産品を、
「関門」観光客が堪能

下関都市圏(本州)

北九州都市圏域(九州)

【北九州都市圏域連携】

「1次産業の6次産業化」と 「産業観光等の有機的連携による観光振興」

北九州都市圏域に埋もれた農水産物や産業遺産などの観光資源を掘り起こし、6次産業化や観光振興の充実を図る。さらに、関門地域の観光客が、「ついで」に立ち寄りたくなるオプション観光地となることにより、更なる圏域の交流人口の増加につなげる。

総事業費：515百万円（H28年度：80百万円）

【年間観光者数】

H32：3,672万人

↑32万人増

H27：3,640万人

※北九州都市圏域を構成する市町

北九州市、直方市、行橋市、豊前市、中間市、宮若市、芦屋町、水巻町、岡垣町、遠賀町、小竹町、鞍手町、香春町、荻田町、みやこ町、上毛町、築上町

「地方創生推進交付金」を活用した事業一覧（28年6月補正予算）

国の平成28年度当初予算において創設された「地方創生推進交付金」を活用し、県境を越えた下関市や、連携中枢都市圏「北九州都市圏域」を形成（平成28年4月）している近隣16市町と連携した観光振興事業等を実施するもの。

【北九州市、下関市共同提案事業】

「かんもん海峡都市」観光まちびらき・形成連携事業 （連携中枢拠点都市が連携した観光推進事業）

事業名		事業概要	予算額 (千円)	うち交付金 (千円)	担当局
1	関門海峡都市・ 観光まちびらき連携事業	関門地域の地理的優位性や多彩な観光資源を活かすため、夜間ライトアップによる景観の向上や関門海峡周遊バスの運行、関門地域で使用できる多言語対応アプリケーションの開発等通じ、訪日観光客の受入環境を整備する。	55,000	27,500	産業経済局
2	関門地域魅力向上事業	関門地域での観光客増加のため、新たな観光資源を掘り出しブランド化等を行うとともに、大規模なイベント等を実施することで関門連携を本格的にスタートさせる。 また、民間活力を導入した新たな観光スポットの整備を目指して、現況調査等を行う。	62,500	31,250	企画調整局
3	関門連携による 国内外映画・テレビドラマ 誘致・支援事業	関門海峡を中心とした北九州市・下関市のロケ地としての魅力等を活用し、国内外の映画・テレビドラマを誘致する。	30,000	15,000	市民文化 スポーツ局
小 計			147,500	73,750	

【北九州都市圏域（17市町）共同提案事業】

連携中枢都市圏「北九州都市圏域」による『きりん』の輝き推進事業

事業名		事業概要	予算額 (千円)	うち交付金 (千円)	担当局
1	北九州都市圏域連携事業	北九州都市圏域でのブランディング構築に向けた調査、プロモーションの検討を行うとともに、首都圏での北九州都市圏域PRイベントを行う。	37,000	18,500	企画調整局
2	北九州空港を利用した 「きりん」エリアの 魅力発信事業	北九州空港を基点とした北九州都市圏域の魅力を発信するため、周遊ルートの開発、プロモーション、ファムツアー（旅行業界・メディア業界等の関係者を対象にした現地体験ツアー）を実施する。	20,000	10,000	港湾空港局
3	世界遺産関連連携事業	世界遺産をはじめとした産業遺産の魅力を多くの方々にPRするため、産業遺産ツアー、世界遺産・環境ツアー等の検討・準備を行うとともに、世界遺産施設に係る説明員を配置する。	5,000 企画 1,000 産経 4,000	2,500 500 2,000	企画調整局 産業経済局
4	「関門海峡都市」観光まちびらき・形成連携事業と協調した夜景観光促進事業	北九州都市圏域での周遊観光促進、観光滞在時間・宿泊者の増加を図るとともに、「関門海峡都市」とも連携した夜景観光を促進するため、周遊観光の拠点のひとつである若戸大橋のライトアップの検討を進め、整備計画を策定する。	10,000	5,000	産業経済局
小 計			72,000	36,000	

総事業費

219,500 109,750

注) 北九州都市圏域を構成する市町名
北九州市、直方市、行橋市、豊前市、中間市、宮若市、芦屋町、水巻町、岡垣町、遠賀町、小竹町、鞍手町、香春町、荻田町、みやこ町、上毛町、築上町